実施報告書

◆ 基礎情報

計画名	文科リテラシー活動を通して共立リーダーシップを育成する試み
実施責任者	文科　西村　厚子
対象者	文科　１年　89名
実施期間	2025年4月～1月

◆ 取組み概要

初年次必修科目（前期「基礎ゼミナール」、後期「キャリアデザイン演習」「課題解決のためのリーダーシップ入門」）の授業活動を通して、共立リーダーシップの基本的な考え方を1年生全員が理解し実践することを目指した。各授業では、ディスカッション、プレゼンテーション、面接練習など、様々なグループワークにおいて、学生たちが他者と協働しながら共立リーダーシップを学び、その過程の中で自己評価や相互評価の振り返りを行った。また、スピーチやプレゼンテーションといった文科の伝統あるリテラシー教育の取り組みと全学の新たな教育方針である共立リーダーシップを融合することにより、より現代社会に合った教育活動として発展させることができた。

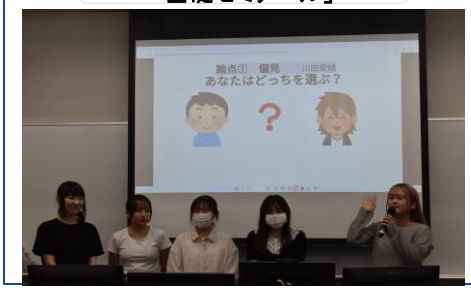
◆ 取組み全体の流れ

前期「基礎ゼミナール」では、学修の第一段階として、まず湯浅旦敏先生の講義で共立リーダーシップの基本的な考え方を学び、グループ・プレゼンテーションに取り組む過程で共立リーダーシップを涵養した。プレゼンテーション準備のためのグループワークでは、リーダーシップのルーブリック（目標の共有、率先垂範、相互支援、多様性と寛容性）を共有し、学修活動を進める過程で自己評価・相互評価を実践した。後期は、「課題解決のためのリーダーシップ入門」にて広報動画のプレゼンテーションコンテストをゴールとして設定し、各クラスでのグループワークを行った。各クラスで優秀作として選ばれた作品については、文科ホームページ上での一般公開を予定している。また、「キャリアデザイン演習」では、ディスカッションや面接練習のグループワークの過程でルーブリックを用いた自己評価・相互評価を行うと共に、「自ら課題を設定し解決する活動」や「問題解決や新しい提案」について学生自身が発信する活動として、卒業研究プレゼンテーション発表会と英語スピーチコンテストを行い、入賞者を表彰した。

取組みの成果

◆

グループプレゼンテーション
「基礎ゼミナール」



コース紹介動画
「課題解決ワークショップ」

英語スピーチコンテスト
「キャリアデザイン演習」

実施報告書

◆ リーダーシップ教育に関する実践

共立リーダーシップの意識づけ、目標設定の活動	入学初年度前半に文科１年生全員が共立リーダーシップへの意識と理解を高めるため、「基礎ゼミナール」の全体会で湯浅且敏先生のリーダーシップのレクチャーを実施の上、「実践ガイド」で共立リーダーシップの概要を確認した。さらに、共立リーダーシップの教材を使用して目標設定を行い、プレゼンテーションを通して「自ら課題を設定し解決する活動」や「問題解決や新しい提案」について学生自身が他者に対して明確かつ効果的に発信できるようになることを目指した。
協働活動	前期のグループ活動においては、まず「チームの方針」「行動確認シート」でグループの方向性を決定の上、プレゼンテーション準備の学修活動を進める過程でリーダーシップのルーブリックを活用し、途中経過の自己評価と最終的なプレゼンテーションコンテスト後の自己評価を実施した。２段階の振り返りを行うことにより、ルーブリックをより効果的に活用できた。後期のグループ活動では、広報動画作成を通して「自ら課題を設定し解決する活動」を行い、グループディスカッションを通して「問題解決や新しい提案を行う活動」を実践した。
共立リーダーシップの観点での振り返り	前期「基礎ゼミナール」の取り組み前後では「率先垂範」が大幅に上昇し（3.0➡3.9）、「目標設定と共有」もある程度上昇した（3.5➡3.8）。「相互支援」（3.8）「包容性」（3.9）に変化は見られなかった。後期「キャリアデザイン演習」においても取り組み前後のスコアを比較したが、各項目において大きな変化は見られなかった。後期の「率先垂範」スコアは活動前の時点で既に3.4で、前期の活動前スコア（3.0）よりも高かったことにより、後期活動後のスコア（3.6）と大きな差が出なかったと考えられ、前期に学んだ成果を後期まで維持できていたと推測される。

◆ 学生の成長に関する総括

本件は今年度初めての取り組みであり、文科の学生の特性とリーダーシップ教育との親和性を懸念する声もあったが、学生たちは概ね前向きかつ誠実に取り組むことができた。取り組み前後の自己評価スコアから、「相互支援」「包容性」については普段から実践できているのに対して、これまで学生たちが意識してこなかった「率先垂範」については、今回の活動を通して大きく成長できたと分析する。学生たちの「振り返り」として、「チームメンバー一人ひとりの特性を理解し、それに適した役割分担を調整することができた」「皆が自分の役割を理解し、その役割に責任をもって参加していた」「反対意見が出ても否定せずに、反対意見の良いところを取り入れることができた」など、学生自身が自身やグループの成長を実感するコメントが複数見られた。一方「難しかった点」についても「（実際に）やってみると思ったように言葉が出てこなかった」など、今後の課題についても具体的に考えることができた。

◆ 取組みを通した全体の所感

今回の取り組みでは、豊かな表現能力、コミュニケーション力を高めることを目的とした文科リテラシー活動の中に共立リーダーシップのコンセプトを取り入れて、一人一人の自分らしいリーダーシップの実践の場として発展させていく試みを行った。今後さらに、文科独自の特色あるリーダーシップ教育の確立を目指して様々な学修活動を展開していきたい。今回の取り組みは、１年次の必修３科目と関連付ける形で実施したが、多くの学生に安定的に取り組んでもらう上で、必修授業との連携は重要であると考える。関連授業の担当教員と相互に意見交換を重ねて、丁寧に共通認識を作り上げていくには多くの労力と時間が必要であるが、学科全体としての取り組みに発展させて、学生全員に文科独自のリーダーシップを深く浸透させることができれば、大きな意味を持つのではないだろうか。ご担当科目を通して協力してくださった先生方に、この場を借りて感謝の意を表したい。

◆ 今後の展開

次年度も引き続き、初年次必修科目と連携して、１年生全員が共立リーダーシップの基本的考え方を理解して実践する機会としたい。現時点では全教員が共通認識を持つに至っていないが、文科のリテラシー教育と共立リーダーシップを融合することにより、学科全体に取り組みが浸透することを目指して更に進めていきたい。

この報告書に加え、別途、教職員向け、学生向けのアンケートを実施させていただきます。